



新年のごあいさつ



蒲郡市長
稲葉正吉

明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、健やかな新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。また、日ごろから市政に対するご理解とご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。

私が蒲郡市長に就任してから早いもので2回目の新年を迎えることとなりました。

昨年を振り返りますと、東日本大震災からの復興、長引く不景気、エネルギー問題、巨大地震への備えなど、非常に多くの課題が浮き彫りとなった一年ではなかったかと思えます。

このような難局の中、私は蒲郡市の舵取り役という重責を担う者として、進むべき方向を見失わないようにしなければなりません。

本年は、私の考える蒲郡市の進むべき大きな目標である「活気のある蒲郡」「元気のある蒲郡」を目指し、引き続きフットワーク良く、スピード感を持ち、現場主義で精いっぱい取り組んでまいります。

まず、社会基盤整備の面においては、国道23号蒲郡バイパスと国道247号中央バイパスの早期開通、三河港蒲郡地区のマイナス11m岸壁の早期完成を目指すとともに、通勤・通学や高齢者の足として貴重な社会基盤である名鉄西尾・蒲郡線の存続のため、西尾市、愛知県とも協力し、市民まるごと赤い電車応援団や沿線住民の方と連携して利用促進に努めてまいります。

また、企業誘致や新産業創出を積極的に推進し、私が掲げる施策の一つである「働く場の確保・産業の振興」を進め、人口増につながる町づくりに努めてまいります。

そして、平成17年より「観光交流立市」の宣言を掲げております本市において重要な産業でもある観光の面では、本年3月に蒲郡駅の観光交流センターがオープンする予定となっており、蒲郡の観光PR、物産の展示などが行われ、さらなるにぎわいが生まれることと期待しております。

最後になりますが、市民の皆さまには、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げるとともに、ますますのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、私からの年頭の挨拶とさせていただきます。